

コレクティブハウス／シェアハウス から考える他人と暮らす技法

久保田裕之(大阪大学)

現代日本人の孤立

- 無縁社会／孤族社会の到来？
 - 単身世帯3割超／非婚化・晩婚化
- 家族の絆の弱体化？
 - 離婚率の上昇／DVや虐待の顕在化
- 地域のつながりの希薄化？
 - 自治会や町内会の空洞化
- 災害によって共同体が危機に貧したとき？
 - 仮設住宅における共同体の再構築

現代日本人の孤立

- 宮台真司
「家族からの疎外には、家族への疎外が先行」
 - ①家族でなければ助け合えないこと
+
 - ②家族を失う／家族を作れないこと
- 日本ではまだあまり例のない、家族を超える他人との共同生活の中に、何かヒントは見いだせないか？

久保田裕之（大阪大学）

3

目次

- 1, シェアハウスとは何か？
- 2, コレクティブハウスとは何か？
- 3, 他人と暮らす／家族と暮らす
- 4, 家族というシェア

久保田裕之（大阪大学）

4

1, シェアハウスとは何か？ (定義)

- 一般的な定義「家族・恋人以外の他人と住居の一部を共用すること」=シェア
 - 家族・恋人以外:きょうだい同居・同棲は含まない
 - 住居の一部:リビング・ダイニング・風呂トイレ・キッチンなど
 - 個室まで共有する場合を「ルーム」シェア
 - 個室を共有しない場合のうち、一軒家を用いる場合を「ハウス」シェア/マンションの一区画を用いる場合を「フラット」シェア
 - (『ルームシェアする生活』二見書房より)

久保田裕之(大阪大学)

5

1, シェアハウスとは何か？ (国際比較)

- 欧米(特に旧英植民地)の大都市部では、大学での寮暮らしや、学卒後の所得の少ない時期、結婚するまでの間にシェアするという選択肢はごく一般的(Heath & Cleaver 2003)。
- 中国・韓国でも、都市部で安く住むために、同郷の友人や親戚を頼っての共同生活が今も残る。
- 日本ではごく希→最近は少しずつ普及

久保田裕之(大阪大学)

6

1, シェアハウスとは何か？ (歴史)

- 疑問①「難しいカタカナ使ってるけど、それって結局は日本の長屋暮らしや、間借りや居候、独身寮と同じじゃないの？」
- →【重要】単なる復古ではない
 - 戦後に身体化した「プライバシー」を保ちながらも、「共同性」との両立を図る(「フラットシェア」が主流)
 - 家主と居候ではなく、居住者の対等な関係
 - 福祉目的の学生寮や社員寮ではなく、自分たちで決める

久保田裕之(大阪大学)

7

1, シェアハウスとは何か？ (分類の視点)

- 他人との暮らしのバリエーション
 - 1) 個室の有無
 - 2) 個室の数＝人数
 - 3) 共同性の度合い
 - 4) 家族単位／個人単位
 - 5) 若者だけ／高齢者だけ／世代混成
 - 6) 所有／賃貸
 - 7) 事業者介在型／共同運営型
 - 8) コンセプト型

久保田裕之(大阪大学)

8

1, シェアハウスとは何か？ (紛らわしいカタカナ)

- コーポラティブハウス(方式)
- グループホーム
- ゲストハウス
- コレクティブハウス

久保田裕之(大阪大学)

9

2, コレクティブハウスとは何か？ (定義)

- 「自治と協働による生活の合理化」をコンセプトとした多世代型シェアハウス
 - 20~40人(個室)規模
 - 大規模なコモンリビング・コモンキッチン
 - 居住者組合による運営(月に一度の会議)
 - 掃除当番な菜園管理などの共同
 - 週に3回~5回の炊事の協働と食事の共同(コモンミール)
 - 海外では「コラボラティブハウス(協働型住宅)」とも

久保田裕之(大阪大学)

10

2, コレクティブハウスとは何か？ (日本での試み)

- 小谷部育子による日本への紹介と、NPO法人コレクティブハウジング社の設立
 - 日本初の本格的コレクティブハウス、かんかん森が日暮里に誕生(2003年)
- 石東直子による震災復興コレクティブの試み
 - 神戸「ふれあい住宅」への働きかけ
 - 東日本大震災後の仮設住宅でも、コミュニティ復興に奔走

2, コレクティブハウスとは何か？ (その課題)

- まだまだ認知度が低く、数も少なく、多様性も乏しい
- 自治と協働の理念の実現を阻む、長い日本の労働時間(自由業か年金生活者が中心)
- 子育てやケア責任を担う人と、そうでない人の利害の相違
- 充実した設備と事業者の介在によって、家賃水準が高めに推移

3, 他人と暮らす／家族と暮らす

- シェアハウス／コレクティブハウスの試みから何を学ぶことができるか？
 - ①大勢で住むことの利点
 - ②話し合い自分たちで解決する仕組み
 - ③それでも他人は面倒？

3, 他人と暮らす／家族と暮らす (①大勢で住むことの利点)

- より大勢でより多くを共同するほど、経済的に効率が良くなる(家賃、光熱費、家事、ケア)
 - 節約志向: 同じ暮らしをより安く／楽に
 - 快適志向: 同じ値段／楽さでより良い暮らしを
 - 工具・BBQ・書籍・DVD・漫画などの貸し借り
- 気の合う仲間と気楽な時間が過ごせる
 - 全員で仲良くする必要はない

3, 他人と暮らす／家族と暮らす (②話し合い自分たちで解決する仕組み)

- 疑問②「でも、大勢で住んだら揉めるんじゃないか？面倒なんじゃないか？」
 - 経済学でいう「取引コスト」の増大
 - 20～40人という規模の限界(管理組合は？)
 - 現実には利害の似た、理念を持った人でないと強い共同性の中で暮らすのは難しい
- 同時に、自分たちの暮らしについて話し合い、解決することに慣れ、長ける必要も

3, 他人と暮らす／家族と暮らす (③それでも他人は面倒？)

- 疑問③「それでも他人と住むのなんて面倒で嫌だ。家族と住む方が、そうでなければ、一人の方がずっと気楽で良いのでは？」
 - 他人とは？
 - 家族もまた利害の異なる他人では？
 - 家族と暮らすこともまた、他人と暮らすことの一形態では？
 - なぜ、「家族や恋人以外」と住むことに限定するのか？

4, 家族というシェア (一人で暮らすとは?)

- 疑問④「なぜ一人は「楽」なのか？」
 - 利害の対立する他人の不在
 - 何でも自分の好きな水準でOK
 - ただし、一人の非効率性を補ってあまりある経済的基盤が必要
- 景気の後退により、たった一人の贅沢な暮らしが誰にでも、いつまでも手に入るものではなくなった

久保田裕之 (大阪大学)

17

4, 家族というシェア (家族と暮らすとは?)

- 疑問⑤「なぜ家族は「楽」なのか？」
 - 愛情は全てを解決する？
 - 利害の一致？(所得の増大)
 - 目的の共有？(子どもの教育)
 - 夫婦・親子間の権力関係と役割分担の意味
- より民主的で対等な夫婦関係になるほど、家族は「面倒な」シェアに近づいていく

久保田裕之 (大阪大学)

18

4, 家族というシェア (まとめ)

- 家族も含めて「他人と暮らすこと」は、全ての人にとっての問題である
 - これまで、夫婦や家族といった「利害一致した」他人との共同生活しかモデルかされていないために、「利害の異なる」他人とどうやって生活を接して生きていくかの訓練が制度化されてこなかった
 - 一方では、他人との協力関係の可能性を閉ざし、他方では、家族に過度な負担を強いてきたのでは
 - 家族と他人の、境界線の引き直し
- 「他人と暮らす技法」を、いかに育むか？

久保田裕之（大阪大学）

19

4, 家族というシェア (まとめ)

- 他人と住むことは、他人と暮らすこと(別紙)
 - どうやって制度化していくか
 - 公営住宅のシェアハウス化
 - 低いレベルの自治と協働から(共同育児・掃除当番)
 - 自治会や管理組合では規模が大きすぎる
 - 親睦会では、共通の仕事が曖昧すぎる
- 高齢者ケアを組み込むためには、福祉制度とのすり合わせが必要
 - 公的ヘルパーを伴ったコレクティブ(北欧)
 - 私費で雇ったナースを伴ったシェア(アメリカ)

久保田裕之（大阪大学）

20

おしまい

- 今日みなさんにお伝えしたいこと
 - ①家族は意外と当てにならないこと
 - ②他人も意外と当てになること
- 「孤独な人が大勢いる」という、奇妙な状況を変えていくことを、足下から、少しずつ